

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 人工海馬による記憶・学習能力の創発
2. 研究代表者： 野村 洋（名古屋市立大学 大学院医学研究科 寄付講座教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

海馬は記憶・学習に必須な脳領域であり、これまで海馬の神経活動を測定する分析・記述研究は行われてきたが、緻密な活動と記憶との関係を検証することは困難であった。本課題は、人工的な海馬を作製し、記憶・学習能力を獲得するか検証することで海馬機能を解明する。分析研究で提唱されてきた仮説を初めて検証すると共に、認知症モデルへの適用を通じて、認知症の新たな治療法の提唱にも貢献する。フェーズ1では、人工海馬の発想により海馬が種々の情報をどのように表出しているのかを明らかにする計画そのものは挑戦的であり、人工海馬を構成する要素技術の挑戦と成果を確認できた。フェーズ2では、フェーズ1で確立したポテンシャルのある技術を用いた人工海馬を理解するための戦略に加えて、何を明らかにしたいのかを具体的に研究戦略を立てていただくことに注力いただきたい。

以上